



OCIの消費を加速する INFOSYSの波駆動型 アプローチ

概要

今日の高速デジタルの世界では、クラウドコンピューティングはもはや単なる便利な技術ではありません。企業はクラウドコンピューティングのパワーを活用するために、ITインフラをクラウドに移行しなければなりません。買収や会社分割のシナリオでは、両社のITインフラを統合する最も手っ取り早い方法は、クラウドへの移行です。これにより、将来の生産性と成長への道が開かれます。

本稿では、Infosys Cobaltポートフォリオの一部である、Infosysが策定したクラウド移行モデルについて説明します。このモデルは、顧客がビジネスを中断することなく、インフラからOracle Cloud Infrastructure (OCI) への段階的な移行アプローチを採用し、全体的なインフラコストを削減しながら消費量を拡大し、高いパフォーマンスを提供するのに役立ちます。

はじめに

クラウド技術分野のリーダーとして、Infosysは、顧客が既存の技術を14~16週間でOracle Cloudに移行できるよう支援するクラウド移行モデルを完成させました。クラウド移行を加速させることで、Infosysは顧客にユーザーエクスペリエンスの向上、高いパフォーマンス、競争力を提供しています。

その意図は、より多くのワークロードを移行対象として特定し、それによって消費量を増加させることです。

Infosysのクラウド移行モデルのフェーズ

Infosysのクラウド移行モデルは、4つの主要フェーズで構成されています。各フェーズでは、明確なアクティビティと成果物が特定されています。このようなモデルがあることで、適切な質問をし、必要な情報をすべて収集することで、クラウド移行活動を迅速に開始することができます。

フェーズ	評価/発見	設計とプロトタイプ	移行	管理
アクティビティ	<ul style="list-style-type: none">現在のオペレーションの理解現状のITランドスケープの分析 - HW/SW/OSインフラ/App/DBインベントリの発見と文書化移行に必要なオプション/ツールの分析LBR、DMZ、その他の重要なセットアップの評価ターゲットシステム/OS/ネットワークのニーズの検証既存の問題、リスク、課題の評価	<ul style="list-style-type: none">評価に基づく移行用ツール/手法のリストアップ詳細なサーバー/ストレージの部品表の確定RPO/RTOニーズに対応した設計クラウドアカウントのセットアップとネットワーク接続クラウドアーキテクチャ、ネットワーク、ID、セキュリティの設計自動化スクリプトの作成による人的工数の削減概念実証(POC)の作成	<ul style="list-style-type: none">リフト/シフト前の既存インフラに対する準備タスクのリストアップDEV/QA/UAT移行の実施統合に関する問題の解決と文書化最終カットオーバーの準備状況の評価最終的なカットオーバー計画の作成、段階的なアプローチの決定最終的なカットオーバー、DR構築、サニティと検証	<ul style="list-style-type: none">ビジネスチームとITチームへの移行アプリ/データベースの更なるパッチの計画キャパシティプランニングの開始リソース/サポートコストの継続的な最適化Oracleが管理する四半期ごとの規制/セキュリティアップデートの確保SLA監視の設定さらなるアップグレードの計画(必要に応じて)
成果物	<ul style="list-style-type: none">対象範囲のアプリ/データベース/OSのインベントリハイレベル移行戦略	<ul style="list-style-type: none">すべてのアプリケーション/データベースの詳細な文書化ネットワークポロジ文書の作成インスタンス戦略文書の作成自動化スクリプト/ソリューションの構築テスト/POCインスタンスの設定	<ul style="list-style-type: none">すべてのアプリケーション/データベースの詳細な文書化ネットワークポロジ文書の作成インスタンス戦略文書の作成自動化スクリプト/ソリューションの構築テスト/POCインスタンスの設定	<ul style="list-style-type: none">プロセス/管理ガイドを含む移行ドキュメントの作成アプリケーションクックブックの作成

移行を加速するツールの準備

Infosysでは、すべてのフェーズで使用できる複数の構築済みツール、アクセラレータ、テンプレートを用意しており、移行の迅速化、コスト削減、コラボレーションの強化を実現します。

ツール		アクセラレータ		テンプレート	
プロビジョニング TerraformベースのOCIプロビジョニング	モニタリング Infosysインテリジェント・オペレーションセンター	移行ワークベンチ クラウドアプリケーション移行ワークベンチ	適合性 クラウド適合性フレームワーク	互換性 互換性分析	アーキテクチャ インフラリファレンスアーキテクチャ
ワークロード移行 Infosysのワークロード移行ツール	Infosysのデータベース移行ツール Ansible/Jenkinsベーススクリプト	プランニング 分析的ウェブプランニングのフレームワーク	見積もり 移行ポイント推定フレームワーク	リスク分析 リスク評価テンプレート	ベストプラクティス OCI移行・クックブックテンプレート



OCI移行におけるInfosysの波駆動型アプローチ

企業の既存のテクノロジー・スタックをクラウドベースのインフラに移行するのは、複雑な作業のように思えるかもしれませんが、適切なツールとプロセスでうまく実行すれば、競争力のある技術的優位性を提供するだけでなく、前年比でかなりのコスト削減を実現できます。

Infosysは、OracleとOracle以外のワークロードをOCIプラットフォームに移行す

波1

- ・ オンプレミスからOCIへの移行のビジネスケースと価値提案の作成
- ・ ライセンスの最適化
- ・ 前年比のライセンスと全体的なTCOの予測
- ・ 選択したアプリケーションと周辺機器の移行/アップグレード

るためのウェーブベースのアプローチを開発しました。全体的な活動は、3つのウェーブに分けて実施されます：

波1 - OCI移行のビジネスケースの確立。組織全体でライセンスが最適化され、選択されたアプリケーションがExaCS/Bare Metalサーバーに移行されます。

波2 - 各部門の主要なビジネスアプリケーションがOCIに移行されます。

波3 - Windowsベース/Docker/Kubernetesアプリケーションなどの非Oracleワー

波2

- ・ クライアント/サードパーティデータセンターからOCIへの他の主要ビジネスアプリケーションの移行とアップグレード
- ・ 主要アプリケーションに関連する周辺アプリケーションの移行

クラウドがOCIに移行されます。サードパーティサーバー上のその他のアプリケーションも移行されます。

波駆動型アプローチでは、ビジネスに重要なアプリケーションを最初に移行し、その他の周辺アプリケーションはすべて次のウェーブで処理します。企業の様々な部門にまたがるアプリケーションは、移行の完全性を確保するために、いずれかの波でカバーされます。

波3

- ・ Windowsベース/Docker/KubernetesアプリのようなOracle以外のワークロードのOCIへの移行
- ・ サードパーティのデータセンターに存在する残りのアプリケーションのOCIへの移行



ケーススタディ

ビジネス状況

2017年、電気モーターの大手メーカーが、別のターゲット企業のモーター、ドライブ、発電事業を買収しました。他の買収と同様、この買収をきっかけに、インフラとITランドスケープに関するいくつかの大きな決断が必要となりました。

クライアントは、買収対象企業のITインフラを自社併設のデータセンターに移行したいと考えていました。

Infosysが提案したソリューション

Infosysは、お客様とターゲット企業のITインフラを調査し、OCIへの完全移行

を提案しました。お客様にとって、この移行は費用対効果が高く、スケーラブルで、長期的に効率的なものでした。

Infosysは、顧客のワークロードをOCIプラットフォームに移行するための、ウェーブベースのアプローチによるロードマップを作成しました。

波1

- Oracle EBSと関連する周辺アプリケーションをOCIに移行します。Oracle DBを使用するすべてのアプリをExaCS for ERPアプリに移行します
- SharePoint、iPoint、SQL Serverなど、Oracle以外のワークロードをOCIに移行します

波2

- 異なる部門のために、サードパーティのデータセンターからe-business suite 11iを12.2.7に移行してociにアップグレードします
- 周辺ERPアプリケーションの移行

波3

- Windowsベース/Docker/KubernetesアプリのようなOracle以外のワークロードをOCIへの移行
- サードパーティのデータセンター上のアプリケーションをOCIへの移行



OCI移行における波ベースの メリットアプローチ

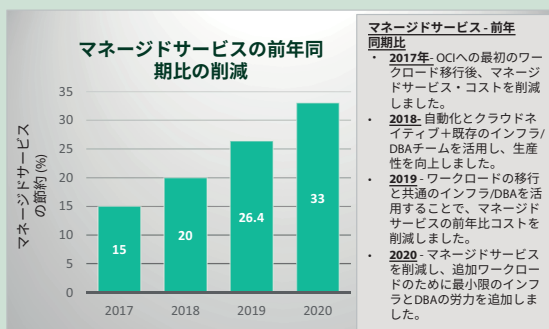
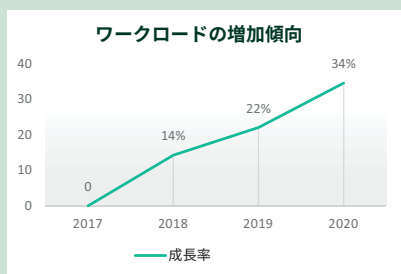
- ・ 移行対象のoracleとoracle以外のワークロードを特定することで消費量を増加させます
- ・ Infosysの資産活用によるコスト削減、インフラチームとDBAチームのシナジー効果
- ・ Infosysが独自に開発したツールやアクセラレータを利用することで、クラウド技術の採用を迅速化します
- ・ 段階的なアプローチにより、企業の日常業務への影響を最小限に抑えます

OCI移行に対するInfosysのアプローチは、以下の表に示すように、お客様にとって他にもいくつかの最適化のメリットをもたらしました：

60-70% プロビジョニング時間の改善	25-30% CPU使用率の改善
20-25% バッチジョブ実行の改善	15-30% マネージドサービスの労力削減
25-30% 応答時間の短縮	20-25% バックアップ時間の短縮

前年同期比のクラウド利用動向

グラフが示すように、Infosysの実績あるウェーブ・アプローチを利用したOCIへの移行は、大幅なコスト削減と組織の成長加速につながりました。2017年から2020年にかけて、お客様のクラウド消費量は指数関数的に増加し、ユーザーベースも同様に増加しました。



結論

今日、成熟度にかかわらず、企業はクラウドベースのテクノロジーを活用し、生産性の向上と成長の加速を図ることが不可欠です。クラウドプラットフォームへの移行は、リスクやコストの高い活動である必要はありません。Infosysが提供する経験と専門知識を活用すれば、迅速かつコスト効率に優れた、生産性の高い移行が可能です。Infosysの試行錯誤を重ねた波駆動型アプローチは、既存のITランドスケープの分析、明確なロードマップ、段階的なOCI移行の迅速な実施により、消費拡大を実現します。このアプローチにより、企業はすぐに具体的なメリットを実感できるようになります。



詳細については、oracle_mktg@infosys.com までお問い合わせください。

著者について



Syed Amber Naqvi

Infosys、プリンシパル・テクノロジー・アーキテクト

Syedは、Oracleテクノロジー、分析、設計、実装、アップグレードにおいて20年以上の豊富な経験を持っています。Infosysでの現在の職務は、oracleおよびoracle以外のワークロードに対して、さまざまな顧客にOCIソリューションを提供することです。



Charudatta Joshi

AVP兼Oracleテクノロジーサービス責任者、Infosys

ITソリューションにおいて25年以上の実務経験を持っています。彼は、新しいクラウド・ソリューションのアイデアに優れているInfosys Oracle Technology centerを率い、魅力的なコスト削減と付加価値提供への転換、GTM戦略の準備、社内関係者や顧客との緊密な連携、Oracleとの連携を行います。Oracle認定アーキテクトの強力なチームをグローバルに率っています。

Infosys Cobaltは、企業のクラウドジャーニーを加速するためのサービス、ソリューション、プラットフォームのセットです。14,000を超えるクラウド資産、200を超える業界のクラウド・ソリューション・ブループリント、そして活気あるプラットフォームを提供しています。また、ビジネス価値の向上を推進するためのクラウドビジネスとテクノロジーの専門家による活発なコミュニティを提供しています。Infosys Cobaltでは、規制およびセキュリティコンプライアンスに加え、技術的および財務的ガバナンスが、提供されるすべてのソリューションに組み込まれています。

詳細については、askus@infosys.comまでお問い合わせください

Infosys®
Navigate your next

© 2021 Infosys Limited、インド、ベンガルール無断複製・転載を禁じます。Infosysは、本文書の情報が発行日現在で正確であると考えていますが、かかる情報は予告なく変更される場合があります。Infosysは、本書に記載されている商標、製品名、その他の知的財産権に対する他社の所有権を認めず、明示的に許可されている場合を除き、このドキュメントおよびそのいかなる部分も、Infosys Limitedおよび/またはこのドキュメントに基づく指定された知的財産権所有者の事前の許可なく、電子的、機械的、印刷、複写、記録、その他いかなる形式または手段によっても、複製、検索システムへの保存、または送信することはできません。

Infosys.com | NYSE: INFY

接続を維持   